

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



被災されました皆様に心よりお見舞いを申し上げます

九州北部豪雨 被災者緊急支援を実施中



助けられる喜びを知った時

日本国際飢餓対策機構 広報主任 鶴浦弘敏

九州北部を襲った記録的豪雨によって多数の死傷者、行方不明の方々が出ておられることに心から哀悼とお見舞いを申し上げます。当機構は、熊本地震直後に生み出された支援ネットワークの「九州キリスト災害支援センター」と協力して被災された方々の支援をさせていただいています。ぜひ皆様からの応援をお願いいたします。

10年前の2007年3月、石川県能登半島西岸で大地震が発生、震源近くの輪島市など3市町では震度6強の揺れに襲われ、輪島市門前町では住宅や工場、店舗の倒壊が集中しました。国の震度6以上の地震が起きる確率は0.1%以下という予測は覆されました。

門前町は私の父母の郷里でした。当然親戚もみな被災しました。父の生家は最終的には全壊判定で取り壊しとなりました。ただすでに父は他界、家には父の兄弟の子ども家族が暮らしていました。すぐに能登に行くために職場に休暇を打診したところ「現地に精通しているなら被害調査に行くように」との指示が出て、他のスタッフと車で被害状況の調査をしながら最大被害地の門前町に入りました。

故郷は大きく傷つき、父の家は倒壊は免れたものの家財は散乱し、叔父と息子が怯えながら寝起きを続けていまし

た。翌日曜日、町で唯一の教会で礼拝をして戻った家で奇跡の光景が待っていました。10名近くのボランティアさんが傾いた家の中に入り、黙々と壊れた家財を運んでいました。名も知らないこの人たちはどこから来たのか…。その瞬間心の底から「ああ、助けられるというのはこんなに嬉しいんだ!」と叫びました。飢餓対策機構の一員であるのに「助けられることがこんなにも嬉しいことを私は知らなかった!」最後に皆さんに心を込めてありがとうを伝えました。

その後、門前聖書教会がベースキャンプとなって、被災者支援をさせていただきました。また森祐理親善大使も来てくださり、町の多くの人々に心の支援も届けられました。その門前町では今年8月にもう一度森さんの慰問コンサートが行われます。近隣の方はぜひご来会ください。

いま九州北部豪雨被災者緊急支援の現場でも、ボランティアさんの働きによって「助けられることの喜び」を深く実感される方もおいでになることでしょう。その喜びが明日への希望と困難から立ち上がる力と私は信じます。そのためにJIFHは皆様と共に歩みます。

わたしから始める、世界がそして九州が変わる、共に力を合わせましょう。

お昼の給食では栄養バランスのよいアフリカ食が提供されます。また毎朝10時には穀物のかゆも出されます。



学校給食から KENYA 生まれる希望

JIFHはケニアのパートナーであるコイノニア教育センターでの学校給食を支援しています。コイノニア教育センター市橋隆雄代表からの報告です。

KOINONIA
EDUCATION
CENTRE



現在生徒数は80名。
(写真⑤)「それでも人生にイエスと言おう!」のモットーの下で、ほかの人には代替のできない自分自身の人生の支点を



「コイノニアの学校好き?」、「うん、好きだよ」、「どうして好き?」、「だってランチが食べられるもの!」。正直な答えが返ってきます。物心ついて以来、「きょうは何を食べることができるんだろう」という不安を持ちながら、子どもたちは生きてきました。食べるものが何もない! どうしよう? プラスチックの切れ端を噛んで空腹を我慢するか、もの乞いに出かけるか、盗むか。そんな選択しかない中を過ごしてきた子どもたちにとって、ランチ、スナック付きの学校で勉強できることは、何にも代え難い生活です。

自分で選んだわけでもないのに、生まれてきて気が付いてみれば雨の降り込む泥の上に寝かされていました。遊び場はゴミと汚物が散乱して埃に息が詰まる道。夜になれば酔っ払いの叫ぶ声。隣

からは男に殴られる女性の悲鳴。「泥棒が来ませんように」と祈って夜を過ごします。ママは今夜もどこかへ出かけて行って帰ってこない。家の掃除、妹の世話もしなくちゃならない。お湯を沸かす薪もない。本を読みたいけど灯りはない……。

食べられることの意義

学校へ通い、勉強を続ける、その先に微かに見える希望の光に向かって子どもたちは歩み続けます。身体も強くなくてはなりません。殆どの子どもが栄養不良で育ってきました。でもコイノニアの学校で食べられる! バランスのとれた料理を毎日一回は確実に食べられる。これはたいへんな恵みです。子どもたちの健康が守られ、学校生活を継続できるようにJIFHは毎年給食支援を行っています。支援者の方々に心から感謝申し上げます。

見出し、世界のどこにいても、与えられた賜物、才能を用い神様と他の人々に仕えるワールドクラスのサーバント・リーダーとして成長して欲しいと願っています。

先生たちの決して諦めない愛の関わりを通して、神様の愛に気付き、自分は忘れられていない、諦められていない、見捨てられていない、喜ばれている、感謝されている、誇りに思われているということに気付いてきます。愛されているという自信が生れる時、子どもたちは強くされ、変り始めます。一人一人を見つめ、わずかに滲み出る成長を発見し、それを喜び、子どもたち一人一人を掘り出す作業を日々続けています。



最上級生の高校生と市橋代表

ハンガーゼロサポーターになってコイノニア教育センターの学校給食を応援しませんか! 最終頁に案内があります



里子の家が火災

変わるものと 変わらないもの

標高3,300mの高地アサワニセンター・ヤルビコヤ村のロケ・コルケさん一家、2人の里子エンカルナちゃん12歳とエルミアちゃん9歳の家の一室が5月16日(火)、焼失したことが土曜夜のスタッフの家庭訪問でわかりました。17歳、15歳、7歳の男子もいる7人家族です。

火曜日は週に一度の市場開催の日で、農作業と市場へ行くため両親は火元の確認をしっかりとしないまま慌てて家を出たようで、午後帰宅した時には部屋の内部が全焼していたのです。この部屋は寝室であり、一年分の保存食料や衣類、学用品、聖書等を保管していた部屋でもありました。残ったのは別の一部屋(目測で3m×6m位、わらぶき屋根に泥レンガの壁と土の床)と牛の糞ふん、薪まきなどが保管されている燃料倉庫。電気は無くランプでの生活です。

食料と防寒具を手に入れたら急行

その日高地にいた私が報告を聞いて、翌日長距離バスで急遽コチャバンバへ降り、急いで当座必要な食料を買い、自宅にあった衣類などを準備しました。そして再度バスで高地へ戻り、同夜地元の人の車をチャーターしてFHスタッフハウスからも支援物資を積み込み、スタッフ二人と村のリーダーと共に家庭訪問を行ないました。宿舎への帰りが夜中になりましたが、雪が降る前日に防寒着や毛布も含めた物資を届けることができたので大

変感謝でした!

アイマラ語でのFHスタッフの祈りの間、一家のお母さんご自身も祈りながら号泣されていましたが「神様が支え、今後のことを導いて下さると信頼していきます」と言われていました。二人の里子ちゃんたちも私たちの訪問と祈り、また届けた物資をととても喜んでくれ、彼女らの笑顔を見ることができとても嬉しかったです。

村の教会からも励まし

また感謝だった事は、村のキリスト教会の人たちが私たちの訪問の直前に訪問され、彼ら自身も貧しい中、食料と服の献品をして祈り励まし、私たちと同行した村のリーダーも後日他の方々と支援物資を持って家族を励まされたことです。この一家はクリスチャン家庭ですが、最近教会から遠ざかっていたそうです。このことをきっかけに、再びご家族一人一人が神様の元に立ちもどることができるようにと私たちは願っています。

また二人の里子のサポーターの方々がこの一家のために祈り、エンカルナちゃんのサポーターである奈良の教会の方々が、現在募金を募って下さっています。

村の人々、地域教会、日本の支援者の方々、どこにいても、どんな状況にあっても変わらない愛の祈りと具体的

な支援を受け、彼らが力強く歩んで行かれることを確信し、神様に感謝せずにはいられません。

◀お母さんも最後は笑顔に(後列右から2人目)。その前にエルミアとエンカルナちゃん(緑の服は村のリーダー)



ボリビア多民族国
駐在 小西小百合



サポーターの皆様の支援を受けて、さまざまな地域で人々の生活が変化してきています。今回はバングラデシュとカンボジアの子どもを取り巻く地域の報告をさせていただきます。

バングラデシュ

マチュバラ地区

FHバングラデシュ スタッフ

土地を持たないことからくる貧困によって、食べ物不足し病気になっても治療を受けられない、教育費(学用品、教材、制服、補習)が払えないなど多くの問題が起こります。バングラデシュの田舎の農家の多くがこのような生活をしています。



母親のルナとご主人と息子さん

■ 母親ルナの努力

私には息子と娘の2人の子どもがいます。夫は木こりですが、土地も資産もなく貧しくて毎日十分に食事をする事さえできませんでした。子どもたちの教育費も払えませんでした。でも娘がチャイルドサポーターのプログラムに登録されて、私もFHのプログラムに参加するようになってから生活が変わり始めました。

私は早く結婚したので、教育も十分受けていないし仕事もできません。でも基本的な読み書きや、裁縫とミシンの使い方を学んで、衣服を縫って家族のために収入を得ることができるようになりました。近所の人から注文を受けると約束の日までに届けているので、皆に信頼されています。注文も多くなってきました。息子と娘に良い教育を受けさせて、子どもたちの人生が変えられるように支援したいと思っています。

■ アフロージャと家族の歩み

【アフロージャ】

私は小学校4年生、姉は9年生です。お父さんは自分の土地がないので、小作農民として働いています。でもそれだけでは生活できないので、他の畑で日雇いの仕事もして頑張ってくれています。栄養が足りなくて倒れることもあります。私はチャイルドサポーターのプログラムに登録されて、FHのスタッフのカトゥンさんが勉強を助けてくれたり、励ましてくれて成績が上がりました。課外活動や子どもクラブにも参加しています。



家事を助けるアフロージャ



アフロージャの家族、お父さんと姉とお母さん

【母親フィロザ・ベグム】

FHのカトゥンさんが、私に貯蓄グループに参加するようすすめてくれて、家計を改善するためにアドバイスを受けました。それで私はグループのローンを利用して山羊を買いました。まだ貧しい生活ですが、保健衛生などいろいろな訓練を受けて少しでも暮らしが楽になるように頑張っていきたいと思っています。

【地域の人】

FHがきて、収入創出のための訓練や意識変革プログラム、保健衛生の講習会やトイレの設置など、いろいろな励ましを受けてこの地域の生活が変わってきました。

カンボジア

シエムリアップ州スパイラー地区トイチェイ村

チェアン・ポンさん

(トイチェイ小学校の4年生)の家庭



チェアン・ポンさん、食べ物の衛生にも気をつけています

勉強が大切だなんて…

【父親パオポンさん(42歳)】

私は軍隊で働いていますので、遠くに行かなければならないこともあって農作業ができていません。妻と子どもが畑仕事をしています。生活が厳しいので子どもが病気になってもどうしようもないし、家族全員が病気になった時は生きるのがやっとという状態になっていました。だから子どもに学校に行くよう勧めたこともありませんでした。

【母親のチュオン・チョインさん(33歳)】

年に2~3ヶ月食べ物がない時があって、ひどい生活でした。生きるために稼ぐのが必死で、娘の教育を気にかけていたこともありません。

【ポンさん】

小学校1、2年はお母さんの手伝いをするために学校に続けて行ってなかったの、成績はとても悪かったです。それに誰も学校に行くよう励ましたり勧めたりしなかったし、両親も勉強を大切なことだとは思っていませんでした。

FHが気づかせてくれたこと

【母親】

娘がチャイルドサポーターのプログラムに登録されて、私は健康に関する活動をするグループのメンバーに選ばれました。今では健康・農業・貯蓄の活動に参加しています。おかげで衛生に気をつけているし、貯蓄もし



ポンさんのお母さんも参加している女性たちの集まり

て以前のように食べ物を欠くことがなくなりました。

【ポンさん】

FHのスタッフやボランティア先生が両親に勉強の大切さを話してくれたり、学校に休まず行ってる? って尋ねてくれたりします。それに子どもクラブで勉強してい



キャッサバなど野菜づくりに取り組むお父さん

ると、しっかり勉強するよう励ましてくれるので、今は前より成績が良くなったのよ。清潔にすることやきれいな水を使うことを教えてもらったので、病気にもかかりにくくなったわ。

【父親】

家族がFHの活動に参加するようになってから以前より生活が楽になりました。

家畜を育てたりキャッサバなどの野菜や米を栽培したりして、毎日の生活に必要な収入を得られるようになったからです。この2年間で健康や農業、貯蓄の知識も得ることができたし、子どもの教育の大切さも分かりました。今は娘に学校や子どもクラブで勉強するように励ましています。そして良いリーダーになって欲しいのです。

皆がお互いに愛し合うことを知って、村の発展に貢献してほしいと思っています。



定期的にもたれるグループの集まり

■貯蓄グループ

2016年末時点で、貯蓄グループは6村に28グループあり、メンバーは446人、総貯蓄額は約256万円です。FHは毎月貯蓄グループの会議を開いて、貯蓄をすること、利息の支払い、帳簿記載と決算の作業を促すと同時に、地域行政役人と良い関係を築くようにすすめています。また貯蓄グループのメンバー93家庭(うち女性参加者72名)を訪問し、毎月の会議に参加して、自分たちの貯蓄の伸びを確認することや、グループメンバー同士良い関係を作り上げるよう励



ローンを利用して雑貨店を開いたお母さん

ましています。そして各メンバーが事業を始める資金にするためのローンを、平等に利用できるよう話し合いました。

その結果、メンバーのほとんどがローンを利用して家畜小屋の修理、野菜の種や養豚、養鶏用の家畜の購入、商店の経営に用いています。家計の足しや子どもの学用品を買うために利用する人もいます。

またFHは6つの村の障がい者グループに対して、新しく1つの店舗を運営するよう促しました。障がいがあっても仕事ができ家族を養う収入を得ることができると知ってもらうためでしたが、9人の女性を含む42人のメンバーが参加して現在計約15万円の貯蓄ができています。

子どもたちの家庭訪問

FHスタッフは地域の子どもたちの家庭を訪問して、将来のために教育が必要であることや学校に続けて通うこと、子どもクラブに参加すること、手洗いや入浴、爪切りをすること、又先生や保護者に従うよう励ましています。

健康の改善のために

6村で子どもと若者のために、下痢と食べ物の扱いについてのトレーニングを行いました。

また子どもクラブで洗濯、手洗い、爪切りを行うように話し、身の回りを清潔にして健康を保つと病気にもなりにくいことを伝えています。

子どもを支援する

支援地域の特定の子どもとつながり、その地域で行われる活動を支援いただけます。あなたと出会い、応援を受ける子どもは自分が愛される大切な存在であることに希望を抱き、地域を変えるひとりへと成長していきます。

月々4,000円

子ども1人を支援することができます。

活動を支援する

子どもたちが暮らす地域で行われる様々な活動を支援いただけます。地域に住む人々がそれぞれの役割を果たし、子どもを取り巻く環境の改善と質の向上を目指します。

1,000円～

月々または自由なタイミングで支援できます。



公式サイト

詳細はウェブサイトへ



支援のお申込は、ウェブサイト又はお電話でチャイルドサポーター事務局へ

<https://child.jifh.org>

直通 072-920-2226

九州北部豪雨 地元の「九キ災」と 被災者緊急支援!

緊急募金にご協力ください

当機構は、7月の九州北部豪雨で被災された人々のために九州キリスト災害支援センター(=九キ災、代表横田法路理事)に協力して支援活動を行っています。

パンの缶詰などの物資急送

最初の緊急支援活動として、被災直後の7月7日、福岡県朝倉市にJIFH緊急支援リーダー吉田スタッフほか2名を派遣。その際に車2台にパンの缶詰約4,800食、水ボトルのほか、歯ブラシ、絆創膏、ボディークリーム、虫除け、消臭スプレーなどの日用品を満載して、朝倉市の物資倉庫に届けました。これは地元の社会福祉協議会から九キ災への支援要請に基づいて行



れたものです。このうち、パンの缶詰はパン・アキモト、歯ブラシは全日本ブラシ工業共同組合から提供いただきました。

吉田スタッフはその後、九キ災メンバーとともに被災が集中した福岡県朝倉市や東峰村、大分県日田市などで被害状況を確認し

つ、泥出しや住宅の清掃などの作業も行いました。

【7月14日 吉田の報告】

今日は朝倉地区での作業に参加させていただきました。久留米の教会の先生や韓国人ボランティアチームと泥出しをしました。ここ



はレストラン経営をされている家で庭には大きな池があり、料理用の魚を養殖していました。しかし、洪水で池の魚は流され、建物も床上まで泥に浸っていました。

ここの経営者のご家族は懸命に働くボランティアの姿を見て「ほんとに助かる。ありがたいねえ。韓国からわざわざ来てくれたんね。この前も熊本や福島からも来てくれたけん。それが嬉しくてねえ」と目に涙を浮かべておられました。

伊東スタッフを派遣

同月15日には、吉田と交代で伊東を九キ災の日田ベースキャンプに派遣しました。伊東は東日本大震災や昨年の熊本地震での経験

を生かして、ベースキャンプの事務局とボランティア派遣の運営をサポートしています。

【7月19日 伊東の報告】

車を走らせていると、被害地域が分散しているのが分かります。東北は、地域全体の被害、広島は市内集中の被害でしたが、今回は被害が分散されているのが特徴的です。です。大きく被害を受けている範囲から、50mも離れると全く何の被害もなしという状況です。従って、ボランティアの派遣範囲も広がります。

一般ボランティアが派遣されるのは、民家が優先となり、商業関連の泥だしは、後回しになってしまいうそうです。生活再建を考えるとそうしたニーズに応えることも必要に思われます。

.....

当機構は現地の状況の変化を確認しながら、九キ災への協力を通じて被災者支援への応援を続けてまいります。

緊急募金はこちらから

郵便振替又はホームページからクレジットカードのご利用もできます。
郵便振替00170-9-68590日本国際飢餓対策機構 記入欄に「九州豪雨」と必ず明記をお願いします。

活動参加
希望者は

支援活動へのボランティアを希望される方は、「九州キリスト災害支援センター」までお問い合わせください。
ホームページ<http://kyusyuchristdrc.wixsite.com/kumamoto> 日田ベースキャンプ電話080-3997-3255



日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20カ国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。

★T-POINTを利用して「南スーダン・マナイ小学校給食支援」ができます。現在までに43098ポイント(円)のご協力(4190件)がありました。募金はT-ポイント募金で検索

冷房で冷えた体にココアを

九州北部豪雨被災者支援になります

～トラディショナルホットチョコレート～

南米産カカオとゴールデンシュガーを使用したフェアトレード製品です。



1袋200g入りコーヒーカップ約13杯分¥740

を2袋で消費税、送料込2,000円でお届け。(北海道、沖縄は別途800円加算)

先着10名様には便利な小物をプレゼント。(中身はおたのみ)

今回は1セット毎に50円を九州北部豪雨の支援活動に募金させていただきます。

【問合せ】キングダムビジネス

〒540-0026 大阪府中央区内本町1-4-12NPOビル402

TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888

メール: customer@kbwin-win.org

Web: キングダムビジネスで検索

森祐理さん(親善大使)が「25周年記念コンサート」を開催します。ぜひご参加ください!

- 【香川】 9月18日(月・祝) 14時30分開場15時開演
サンポート高松 第一小ホール
- 【釧路】 9月23日(土・祝) 14時30分開場15時開演
釧路市民文化会館 小ホール
- 【静岡】 9月30日(土) 14時30分開場15時開演
静岡市清水文化会館マリナート 小ホール
- 【愛知】 10月7日(土) 14時30分開場15時開演
名古屋市中区文化小劇場
- 【東京】 10月13日(金) 18時開場18時30分開演
なかのZERO 小ホール
- 【関西】 10月21日(土) 14時30分開場15時開演
芦屋市民センター ルナ・ホール

問合せはモリユリ・ミュージック・ミニストリーズまで
電話06-6762-2324 専用アドレスmoriyuri25@gmail.com

2017世界食料デー NEWS

新しく5大会が加わります

わたしから始める、世界が変わる

考えてみよう

共に生きること

2017年世界食料デー大会として、「北海道」「Tokyo」「近江」「京都長岡」「奈良北」の5つの大会が加わりました。又「郡山」と「宝塚」が再び開催されることになり、全26大会となりました。

ぜひお近くの食料デー大会にご参加ください。次号は「2017年世界食料デー特集号」となりますので楽しみに!

世界食料デー

わたしから始める、世界が変わる



ハンガーゼロ サポーターを大募集中!!

現在までに
4371口

今すぐ各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- 九州北部豪雨被災者緊急支援のために一時募金として()円
- ハンガーゼロサポーターとして協力します。毎月()口 (1口1,000円)
- チャイルドサポーター(子ども1人4,000円)になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- 海外スタッフサポーターとして協力します。毎月()口 (1口1,000円)
- JIFHサポーターとして協力します。毎月()口 (1口500円)
- 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: _____ 男・女

〒 _____

フリガナ 住所: _____

..... (電話)

▼申込日: _____年 月 日▼NL 325号

FAX・072-920-2155

★「南スーダン緊急食料支援」郵便振替の際は通信欄に「南スーダン緊急」と明記ください

■発行所 岩橋電介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト

- 郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
- 他の金融機関からの自動振替 ●クレジットカード、デジタルコンビニ

今すぐ募金ができます!



- 大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
- (広島) TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
- 東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 00Cビル517号室
- (東北) TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
- 愛知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F
- TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
- 沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米202号
- TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
- U S A Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
- 8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
- TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が送付作業の協力をして下さっています。